

好評gasi editorial 第7弾!

より尖った、踏み込んだコンテンツを発信する冊子シリーズです

2025年
2月下旬

韓国大統領による突然の「非常戒厳」宣布、大統領弾劾を求め、200万人規模のデモが行われた。多くの市民が怒り、立ち上がった根底にあるものとは。日本でほとんど報道されない現在進行形の人々の思いと行動を、現地取材した記者が発信!

弾劾可決の日を歩く

”私たちはいつもここにいた”

編著 岡本有佳 本体 1,000円 + 税 ISBN978-4-907053-75-8

2024年12月3日、尹錫悦大統領による突然の「非常戒厳」宣布から始まった韓国の混乱。大統領弾劾を求め200万人規模のデモが行われ、大勢の若い女性たちが参加した。多くの市民が立ち上がり声を上げる根底にあったのは、尹政権の言論弾圧や不正、アンチフェミニズム政策への怒り。弾劾訴追案審議前日にソウルに向かい、取材し、抵抗する人々の声を聞いた記者の現地取材、弾劾集会のステージに立ったイ・ランや独立メディアへのインタビューなど、日本ではほぼ報道されない韓国のリアルな状況です。独立メディア「生活ニュースコモンズ」で配信し、好評を得た記事をもとに、あらたなコンテンツを加え、再編集したのが本書です。より尖った、踏み込んだコンテンツを発信するレーベル「gasi editorial」第7弾。今回はより多くのみなさま、書店さまにお届けしたく、書籍コードを取得して販売します。ぜひご展開のほどよろしくお願いいたします!



弾劾可決の日を歩く
”私たちはいつもここにいた”

編著：岡本有佳

装丁◎ 小松洋子
表紙写真出典◎ ニュース打破
判型頁数◎ B6判・並製・68ページ予定
定価◎ 本体 1000円 + 税
発行◎ タバックス
発売◎ 2025年2月下旬予定

【目次】

はじめに

ソウル・弾劾可決の日を歩く

一家の中で大切な、一番明るい光を持って集まった女たち

イ・ラン インタビュー 「私たちはいつもここにいた。見てなかっただけ」

言論弾圧に抗う① 独立メディア ニュース打破

言論弾圧に抗う② メディアを監視する 民主言論市民連合

韓国の若い女性たちはなぜデモに行くのか—怒りとフェミニズム／趙慶喜

【著者プロフィール】

岡本有佳（おかもと・ゆか）

記者／編集者として活動する。女性たちの表現活動やメディア問題のほか、日本軍「慰安婦」問題などにも関心がある。共編著『『自粛社会』をのりこえる』（岩波ブックレット）、『政治権力VSメディア 映画『共犯者たち』の世界』（夜光社）など。

FAX : 03-6736-0689

〈タバックス宛〉

◎取次 = JRC tel 03-5283-2230 fax 03-3294-2177

JRCを通して全ての取次への出荷が可能です。

◎返品は無期限で承ります【返品了解者：宮川】

mail : info@tababooks.com

貴店番線印	ご注文数	タバックス	人文社会／ZINE	返品条件付き注文扱い
ご担当	様	弾劾可決の日を歩く ”私たちはいつもここにいた” 編著 岡本有佳 新刊 2025年2月下旬 定価 本体 1000円 + 税 B6判 / 68ページ予定 ISBN978-4-907053-75-8 C0095		